

認定 NPO 法人北海道 NPO ファンド

2018 年度事業活動報告 2018 年 10 月 1 日～2019 年 9 月 30 日

1.「越智基金・市民活動支援基金」、「いぶり基金」「まちのプロジェクト基金」「コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金」「米山友愛 RC・風越カップ-北海道応援基金」「平成 30 年 7 月豪雨災害支援基金」の 6 基金から NPO への助成金配分事業を行いました。

1)越智基金・市民活動支援基金

一般公募により、道内の NPO 法人・市民活動団体への助成を実施しました。

応募総数 12 団体 助成決定団体:5 団体 助成総額:50 万円

2) 北海道いぶり東部地震及び台風 21 号北海道内被災地支援基金(いぶり基金)

北海道いぶり東部地震及び台風 21 号北海道内被災地における支援活動を支えるために基金を立ち上げ、下記の要領で被災地の支援、被災者・避難者を支援する活動支援活動等を行う NPO への活動支援金の助成を行うことといたしました。

(一般助成枠)

助成決定団体:14 団体 助成総額:1,800,000 円

(特別助成枠)

助成決定団体 2 団体 助成総額 490,000 円

3)まちのプロジェクト基金

組織診断+クラウドファンディングを特徴にした、組織力向上を意図した新しい助成プログラムです。

助成決定団体 2 団体 助成総額 4,283,711 円

4)コープ 2018 年北海道地震ボランティア応援基金

北海道生協連さまより、胆振東部地震被災地における NPO・ボランティア団体による支援活動に対する助成を目的に造成された冠基金です。助成は、3 年間 900 万円の予定です。

助成決定 13 団体 助成総額 491 万 8 千円

5) 米山友愛 RC・風越カップ-北海道応援基金

東京米山友愛ロータリークラブさまにより、胆振東部地震被災地において子ども・スポーツをキーワードに支援活動する団体のために造成された冠基金です。

助成決定 2 団体 助成総額 18 万円

6) 平成 30 年 7 月豪雨災害支援基金

西日本に大きな被害をもたらした豪雨災害に対する北海道内団体の支援活動を対象

にした基金です。

助成決定 1 団体 10 万円

第 2 回公募には申し込みがなく、基金残額 11 万円は、理事会協議により岡山の「ももたろう基金」に寄付しました。

2. 個人や団体等からの基金の原資を増やす下記の活動を行いました。

1)各基金の寄付額は以下の通りです。

基金名	金額 [円]	備考
越智基金	100000	寄付受付を終了し、市民活動支援基金に移行します。※本年は越智氏の親族の方より寄付申し出がありお受けしました。
北のNPO基金 【市民活動支援基金】	4500	
コープ 2018 年 北海道地震ボランティア応援基金	900 万円	北海道生協連様により、胆振東部地震被災地の活動を支援するために造成された冠基金です。助成は 3 年間の予定です。
いぶり基金	6354109 円	胆振東部地震被災地における NPO 等支援活動のために造成されました。ヤフーネット基金登録中。
いぶり基金特別枠	450 万円	バイナンス様の寄付により胆振東部地震被災地の中長期的支援のために造成されました。
匿名希望者さまよりのいぶり東部地震被災地支援のための基金	500 万円	匿名様より、胆振東部地震被災地で活動する団体を指定した冠基金です。
米山友愛 RC・風越カップ-北海道応援基金	18 万円	東京米山友愛ロータリークラブさまにより、胆振東部地震被災地における、子どもを対象とした活動に助成する目的で造成された冠基金です。
まちのプロジェクト基金	4283711 円	2 団体合計。
東日本被災者支援基金	0	運営終了
子ども基金	0	18 年に造成。
瀧谷きく基金	0	運営終了
西日本支援基金	0	運営終了
ハンドくんファンド	0	北の NPO 基金の運営自体を支援していただくために造成された基金です。ヤフーネット基金登録中。

合計	29422320 円	
----	---------------	--

3. 北のNPO基金の活動

運営実態に合わせて、北の NPO 基金規約を 2018 年 12 月に変更しました。

2019 年 2 月に、「いぶり基金」をヤフーネット基金に登録し、9 月末までにおよそ 200 万円の寄付を集めました。また 9 月には、北の NPO 基金の運営費に充てられる「ハンドくんファンド」を造成し、同じくヤフーネット基金に登録しました。

4. 認定 NPO 法人北海道 NPO ファンドとしての活動

1)2018 年度、2019 年度年賀寄付金助成事業「非営利公益活動の集成的成果を拡大するための社会的インパクト評価促進事業」

非営利公益活動の分野で経営資源に乏しい団体が活躍するためには、直接的な協働だけでなく、住民をも巻き込んだ間接的な協働が必要となる。本事業はモデル団体に対して、社会的インパクト評価を実施し「コミュニティにとって望ましい変化」が起きる道筋を示し、NPO 等の自発的社会的インパクト評価の実施を促し住民参加につなげることを目指します。4 団体をモデル団体として、社会的インパクト評価を実施し、2019 年 3 月に成果報告会を開催。2019 年度も同事業で採択され、継続 2 団体に新たに 3 団体を加え、5 団体に対して評価を実施しています。

2)SIMI(社会的インパクトマネジメントイニシアチブ)運営メンバー、全国コミュニティ財団協会正会員として活動しました。

2019 年 10 月になりましたが SIMI の連携講座を開催しました。社会的インパクト評価や組織評価は、助成事業との関連で語られることが増えてきました。当会としても、引き続き情報の収集や関連イベントの開催を検討します。全国コミュニティ財団協会の活動については、遺贈関連のフォーラムに WEB 参加した以外にはできませんでした。

3)赤い羽根共同募金助成事業を実施しています。

2019 年から 20 年にかけて休眠預金助成が始まることを受け、社会的インパクトに関するセミナーを企画して採択されました。

4)北海道ろうきん社会貢献助成事業を実施しています。

社会的インパクト評価という言葉は、助成事業や金融、そして SDGs との関りにおいて散見されるようになりました。北海道 NPO ファンドとしては、今後も事業評価の普及、啓発、実践を続けます。

5)非営利組織評価センターの評価員養成研修に参加しました

JCNE の評価員養成研修に参加し、実地に組織評価を学ぶ研修に参加しています。この研修に参加するに際しては、北海道 NPO ファンドが JCNE の「ベーシック評価」を受ける必要があり、準備を進めています。

2018 年度事業活動計画

2019 年度事業活動計画(案) 2019 年 10 月 1 日～2020 年 9 月 30 日

1. 「いぶり基金」「いぶり基金特別枠」「コープ 2018 北海道地震ボランティア応援基金」「越智基金・市民活動支援基金」の助成事業を実施します。また、北の NPO 基金の運営体制を、基金ごとの趣旨に沿って運営できるように、選定委員の体制を見直します。選定委員の方々にはいままでよりも基金運営に関わっていただけるようになります。※北の NPO 基金は、市民活動支援基金(一般助成)、プロジェクト基金(事業指定型寄付助成)、冠基金から構成されています。

2. 第 2 期「まちのプロジェクト基金」を実施します。組織診断から資金調達、事業実施までを支援対象とするプログラムを第 1 期に指摘された課題を踏まえて実施します。地方で必要となるといわれている「多機関連携」を意識した支援を行います。

3. 各種の助成申請を試みます。2 年目となる社会的インパクト評価促進事業を実施中の年賀寄附金助成については 3 年目の採択を目指し申請中です。このほかにも、適宜、助成申請を試みます。

4. エリア(地域)基金(当ファンドの北海道内展開)を検討します。

2018 年度は、6 月に開催された当ファンド運営委員会でも検討しましたが具体化には至りませんでした。北海道の市民活動をめぐる資金循環の実現のためには、札幌拠点の当ファンドだけでは十分とは言えないことから、旭川など道内中核市の NPO 支援センターと連携したエリア基金造成の可能性、実施体制などの検討を行います。

5. 基金の普及・啓発活動

北海道 NPO ファンドおよび北の NPO 基金の活動を一般に周知するため、2017 年から加盟した全国コミュニティ財団協会における研修への参加を検討します。

6. 遺贈・寄付の相談窓口業務開始に向けた調査と準備を行います

今後 NPO にたいする遺贈を考える方が増えるという予測のもと、当法人が専門家ネットワークの窓口として遺贈や寄付の相談にあたるべく準備を進めます。全国コミュニティ財団協会や全国レガシーギフト協会を通じた情報収集を続けます。

7. 北海道 NPO サポートセンター、北海道 NPO バンク、NPO 推進北海道会議との連携を積極的に実施しつつ、各種調査対応、メディアへの掲載等の情報発信を通じて、個人や団体等からの基金の原資を増やす活動を行います。